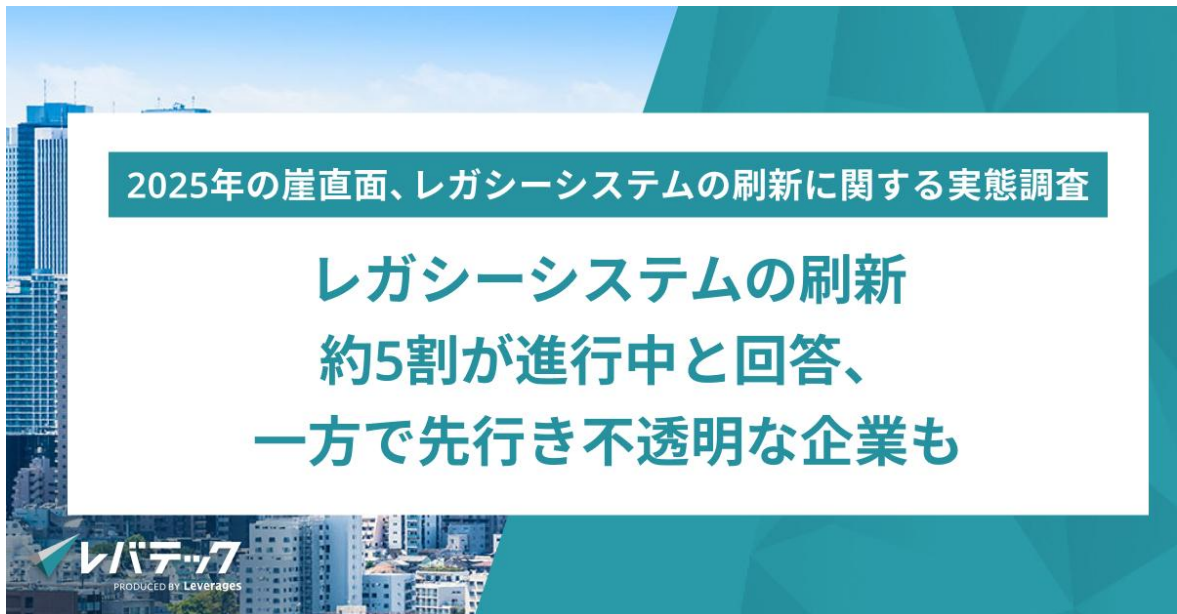




レガシーシステムの刷新、約5割が進行中と回答、 一方で先行き不透明な企業も

2025年の崖直面、レガシーシステムの刷新に関する実態調査



「日本を、IT先進国に。」をビジョンに掲げるレバテック株式会社(<https://levtech.jp/>) は、レガシーシステムを保有している企業の情報システム部門の担当者と経営層516名に対して、レガシーシステムの刷新状況に関する実態調査を実施しました。

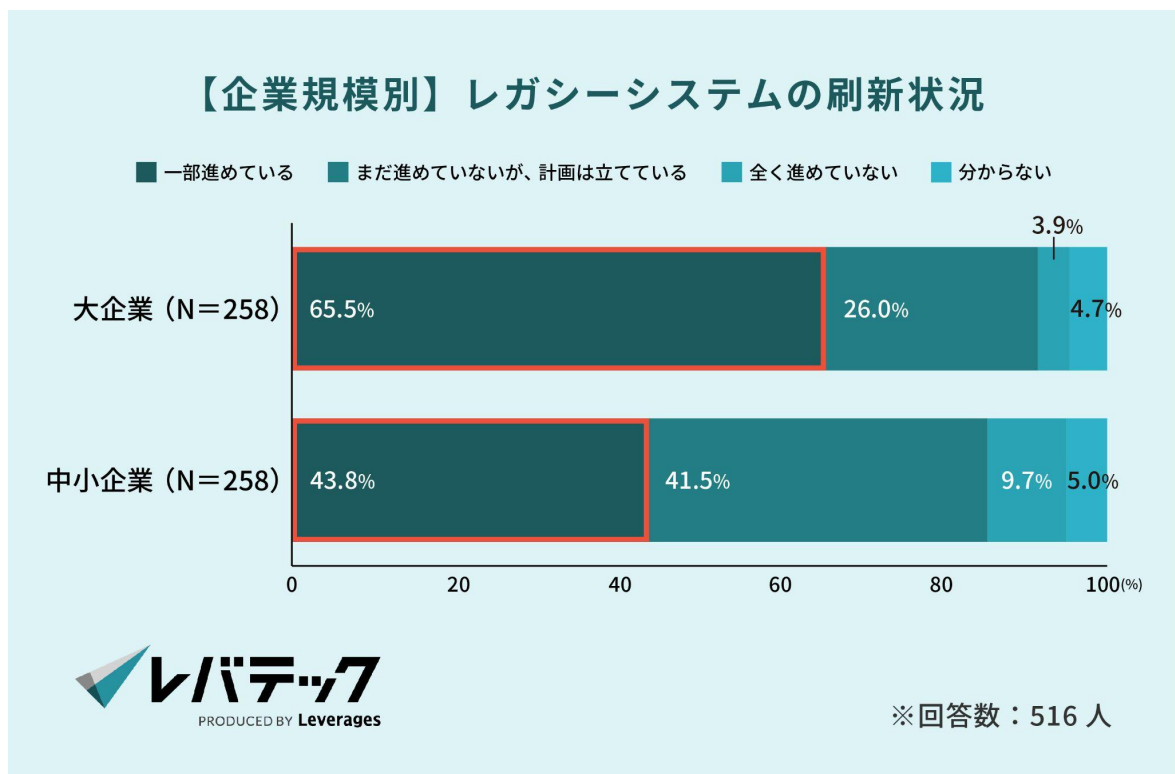
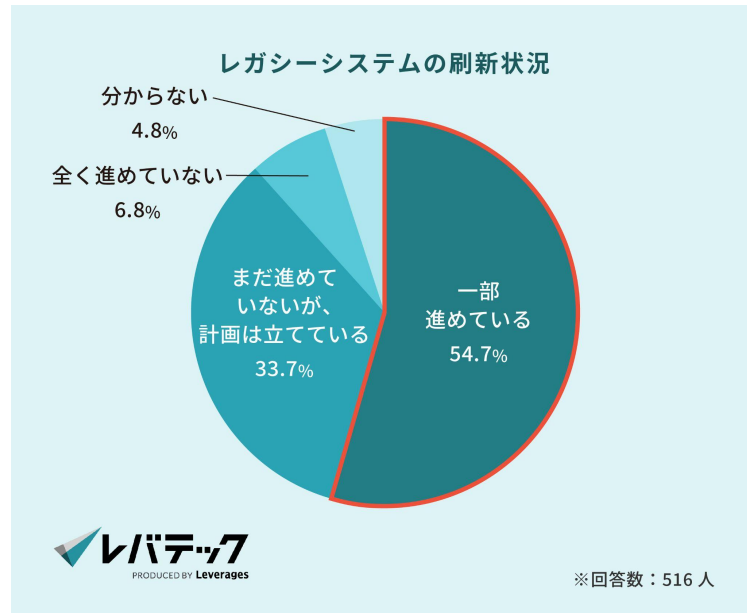
<調査サマリー>

1. レガシーシステムの刷新を進めていると回答した割合は5割に留まる
2. レガシーシステムにおける維持・運用の課題、「技術者不足」が過半数超え
3. 約4割がレガシーシステムの刷新を「3年以内」に完了予定、一方で完了時期が未定の企業も

1.レガシーシステムの刷新を進めていると回答した割合は5割に留まる

レガシーシステムを保有している企業の情報システム部門担当者と経営層に対して、その刷新状況について聞いたところ、「一部進めている(54.7%)」と回答した担当者・経営層は約半数に留まりました。1,000人以上の従業員がいる大企業では65.5%が「一部進めている」と回答し、中小企業(43.8%)に比べて21.7pt高いことが分かります*1。

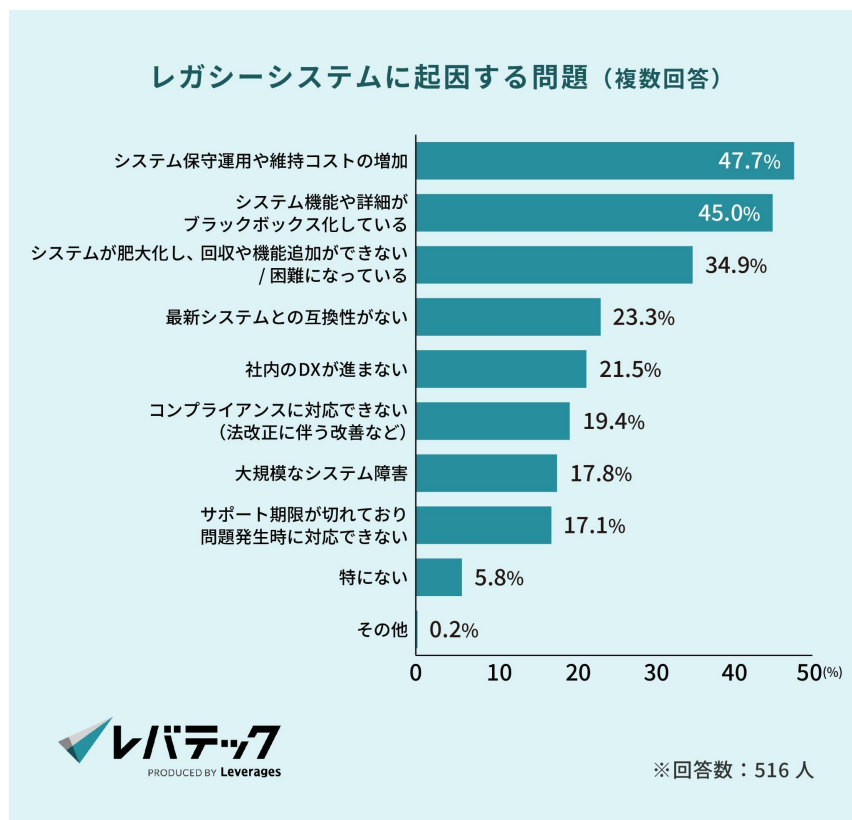
*1 本調査では従業員数1,000人以上の企業を大企業、999人以下の企業を中小企業と定義します

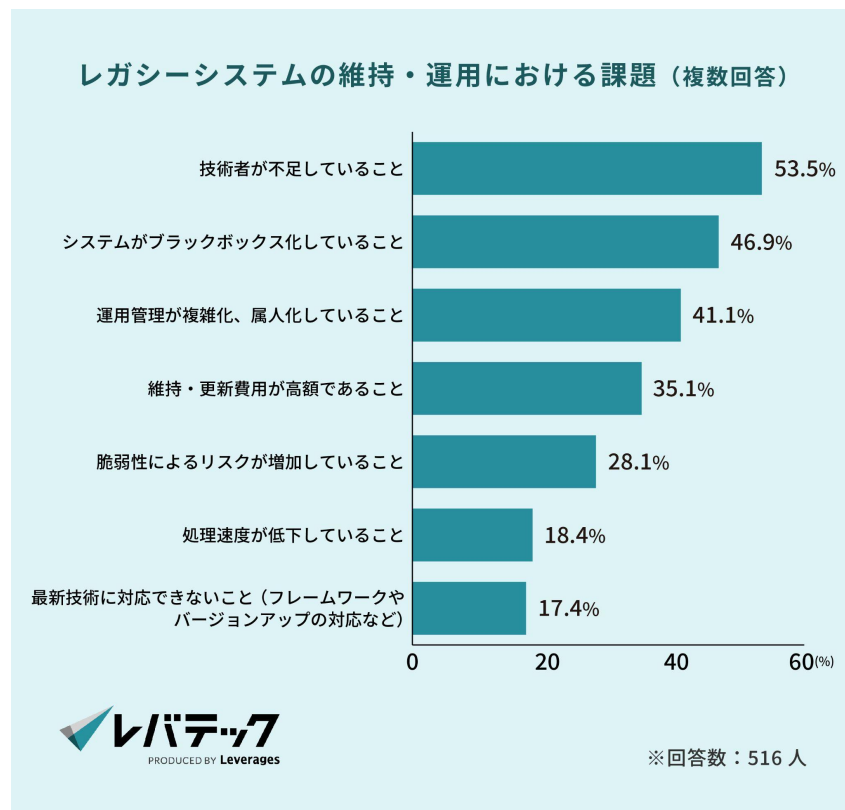


2.レガシーシステムにおける維持・運用の課題、「技術者不足」が過半数超え

レガシーシステムに起因する主な問題について、「保守運用や維持コストの増加(47.7%)」や「システム機能や詳細がブラックボックス化している(45.0%)」が上位に挙がりました。

維持・運用における課題は「技術者が不足していること(53.5%)」が最も多く、次いで「システムがブラックボックス化していること(46.9%)」「運用管理が複雑化、属人化していること(41.1%)」が続きます。コストの増加やシステムの不透明化といった問題に加え、技術者不足や属人化によって維持・運用が困難になっている現状が浮き彫りになりました。





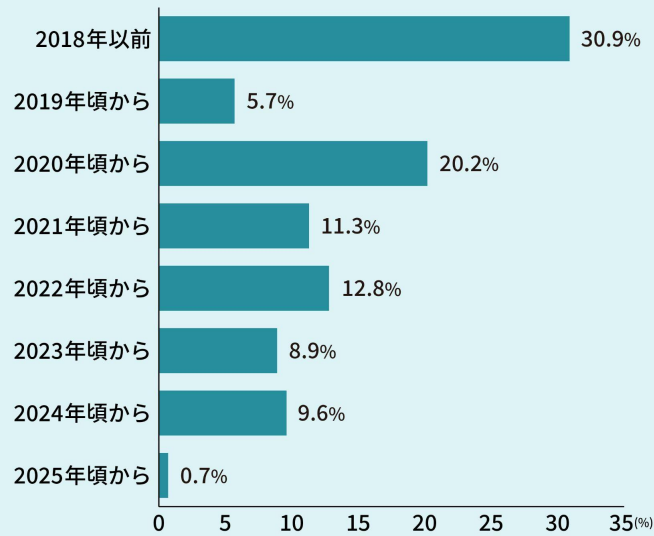
3.約4割がレガシーシステムの刷新を「3年以内」に完了予定、一方で完了時期が未定の企業も

システム刷新の着手時期に関しては、「2018年以前（30.9%）」が最も多い一方で、約6割が2020年以降に着手するなど、比較的最近になって着手し始めた企業が多いことが分かります。

レガシーシステムの刷新を完了しようと考えている時期は「1～3年以内（33.3%）」が最も多い結果となりました。しかし2018年以前に刷新に着手した企業であっても、約3割が完了時期について「未定（28.7%）」と回答しており、長期化や完了の見通しが立っていない企業が一定数存在することがうかがえます。

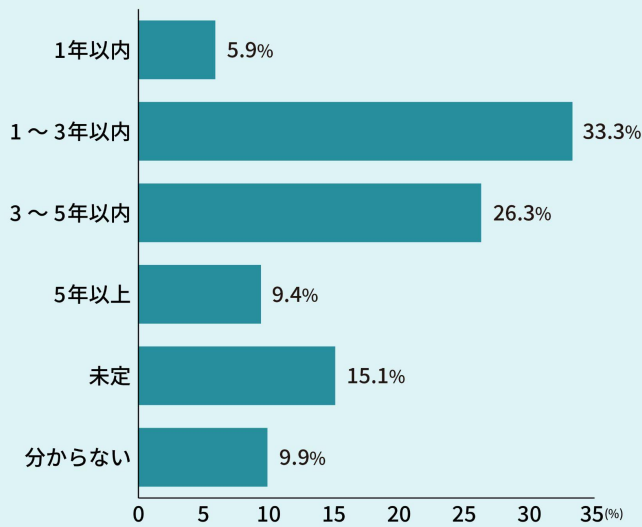
検討している対処について「DX:業務運用を含めて抜本的に新たな形に再構築する」と回答したのは、大企業では64.4%、中小企業では50.0%でした。大企業はDXによるビジネス変革を積極的に推進する一方で、中小企業は既存業務への影響を最小限に抑えるリプレイスも重視する傾向が強いことが分かります。

レガシーシステムの刷新に着手し始めた時期



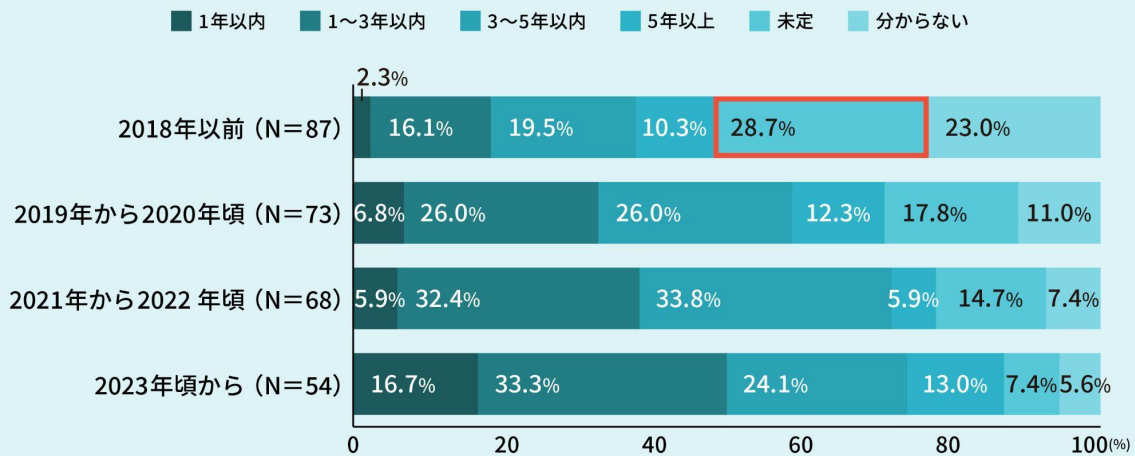
※回答数：レガシーシステムの刷新を「一部進めている」と回答した方 282 人

レガシーシステムの刷新を完了しようと考えている時期



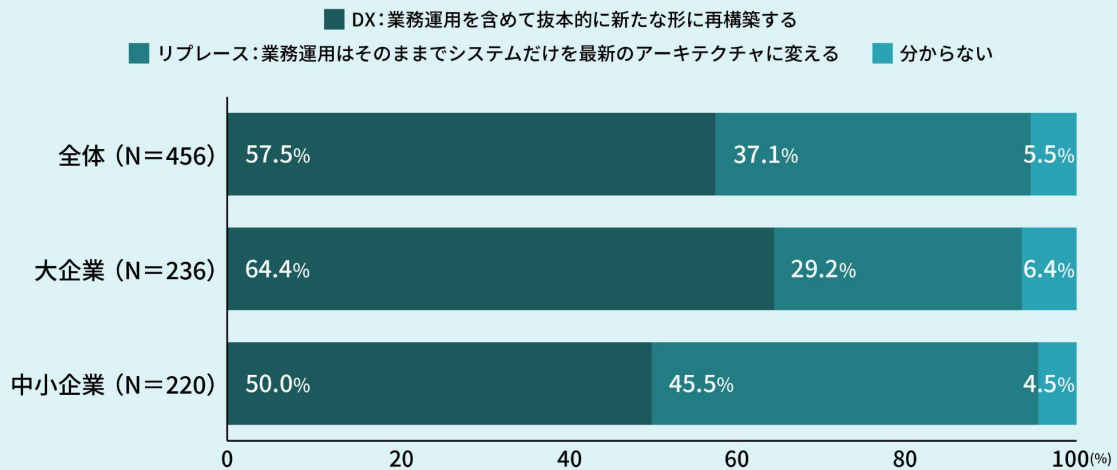
※回答数：レガシーシステムの刷新を「一部進めている」「まだ進めていないが、計画は立てている」と回答した方 456 人

レガシーシステムの刷新着手時期と完了目標時期の関連



※回答数：レガシーシステムの刷新を「一部進めている」と回答した方 282人

レガシーシステムに対して検討している対処



※回答数：レガシーシステムの刷新を「一部進めている」「まだ進めていないが、計画は立てている」と回答した方 456人

〈執行役社長泉澤のコメント〉

経済産業省がDXレポートで警鐘した「2025年の崖」を迎え、レガシーシステムの刷新は多くの企業にとって喫緊の課題となっています*2。今回の調査では現在レガシーシステム

を保有している企業のうち、刷新を「一部進めている」と回答した企業は5割に留まり、約4割は未だ刷新を進めていないことが明らかになりました。

日本企業のシステム開発においては、多重下請けの業界構造やベンダー企業への「丸投げ」とも言える状況によって、企業内にシステム開発に関する知識やノウハウが蓄積されないことも少なくありません。これらは運用の属人化やブラックボックス化を招き、結果的に企業におけるシステム維持コストの高騰やセキュリティリスクを増大させるだけでなく、企業の成長を阻害する恐れもあると考えられます。

レバテックは今後、IT人材の採用支援にとどまらず、企業が抱える課題の本質的な解決に向けた伴走支援を行い、企業のDX化や内製化の後押しに取り組んでまいります。

*2 IPAの発表によると、2023年度時点でレガシーシステムを保有していないと回答した企業は全体の24%であり、多くの企業にレガシーシステムが残っていることが明らかになっています。

2024年6月発表 IPA(独立行政法人情報処理推進機構)「DX動向2024」

<https://www.ipa.go.jp/digital/chousa/dx-trend/dx-trend-2024.html>

◆泉澤 匡寛・プロフィール

2017年、新卒でレバレジェーズ株式会社に入社。新規事業の責任者として、IT特化型就職支援サービス「レバテックルーキー」や、プログラミングスクール「レバテックカレッジ」を立ち上げ、事業の基盤を築く。

2021年、レバテック ITリクルーティング事業部部長に就任し、事業戦略の立案、採用、業務最適化を推進し、複数ブランドの成長を多角的に牽引。2023年4月にレバテック執行役員に就任し、2025年4月1日付で執行役社長に就任。



<調査概要>

調査年月: 2025年6月3日～2025年6月5日

調査方法: インターネット調査

調査主体: レバレジェーズ株式会社

実査委託先: 株式会社マクロミル

有効回答数: 516人

調査対象: レガシーシステムを保有する企業の情報システム担当者・経営層

レバテック株式会社

レバテック株式会社では、「日本を、IT先進国に。」をビジョンに掲げ、「IT人材と企業を増やし、伸ばし、繋げる」ためのプラットフォームの構築を目指しています。現在は業界最大手のITフリーランス専門エージェント「レバテックフリーランス」ほか、IT人材と企業を支援するための様々なサービスを提供。累計登録者は68万人を超えます。

▽「レバテックフリーランス」フリーランスエンジニア専門エージェント

<https://freelance.levtech.jp/>

▽「レバテッククリエイター」フリーランスクリエイター専門エージェント

<https://creator.levtech.jp/>

▽「レバテックダイレクト」ITエンジニア・クリエイター専門求人サイト

<https://levtech-direct.jp/>

▽「レバテックキャリア」エンジニア/クリエイター専門の転職支援

<https://career.levtech.jp/>

▽「レバテックルーキー」エンジニアに特化した新卒向け就職支援エージェント

<https://rookie.levtech.jp/>

▽「レバテックカレッジ」大学生・大学院生対象エンジニア就活特化のプログラミングスクール

<https://rookie.levtech.jp/college/>



Leverages Group (<https://leverages.jp/>)

本社所在地 : 東京都渋谷区渋谷二丁目24-12 渋谷スクランブルスクエア24F/25F

代表取締役: 岩槻 知秀

資本金 : 5,000万円

設立 : 2005年4月

事業内容 : 自社メディア事業、人材関連事業、システムエンジニアリング事業、システムコンサルティング事業、M&Aアドバイザー事業、DX事業、メディカル関連事業、教育関連事業

社会の課題を解決し関係者全員の幸福を追求し続けることをミッションに、インターネットメディア・人材・システムエンジニアリング・M&Aの領域で国や業界をまたいだ問題解決を行なっています。2005年に創業以来、黒字経営を継続し、2024年度は年商1428億を突破しました。各分野のスペシャリストが集うオールインハウスの組織構成と、業界を絞らないポートフォリオ経営で、時代を代表するグローバル企業を目指します。

本リリースに関する報道関係のお問い合わせ
レバレッジズ株式会社 広報部
TEL:03-5774-2900 MAIL: pr@leverages.jp